

卒業生による講演会

○高一対象 平成二十年六月三十一日(土)

19年度の卒業生二人と、16年度の卒業生一人。全員、高校3年間付き合った教え子たちだ。皆、自分なにかが、と遠慮しつつも、後輩のためになるなら、と快く講師を引き受けてくれた。三人三様の個性ながら、前向きで誠実なメッセージは共通。一方、熱心に聴き入る高一生の姿に、良き伝統の何たるかを感じる一時だった。



京都大 法学部

服部真衣さん (平成十九年度卒)

京都大 理学部

車谷優樹さん (平成十九年度卒)

関西学院大 商学部

吉原由加さん (平成十六年度卒)

(北代)

○中一対象 平成二十年九月八日(月)

多方面でご活躍で毎年中学生がお世話になっている本校卒業生(七期)の山本光平氏においていただいた。氏からは自らの道を切り開くときの豊かな発想の大切さ、を学べる貴重なお話を伺えた。

(佐野)

キャンプ活動

昨年度のキャンプ(野外活動)は、五月十五日(木)、高三都祁キャンプが発し、最終が六月五日(木)に出発した高一嬉野台キャンプまでの四週間に亘り実施され、中三天山、中二今津、中一吹田、高二乗鞍・上高地と無事終了しました。

中一の吹田キャンプでは、新しいジャージに身を包み、初めての経験ということもあり、緊張の面持ちでキャンプ実習に臨む姿がありました。残念ながら悪天候のため、テント泊を中止という判断となっていました。

したが、各班の中でお互いに協力しながら、それぞれの行事に取り組んでいく様子は普段の様子とは異なり、感心させられるものでした。また、前年度の卒業生十名がキャンプメイトとして活動に参加してくれました。

キャンプ経験の無い中一生にとっては非常に心強い存在であったでしょう。夕食時にはキャンプメイトと一緒に食事を取り、様々なアドバイスを受けていました。

高一キャンプでは冒険教育という各グループで課題をクリアしていく内容の活動を行いました。最初はお互いに息が合わず、苦労していましたが、徐々に協力しながら課題をクリアしていく様子が見受けられました。

各学年、キャンプ実習を通じて自然との触れ合いや、共同生活を行う中での協調性・責任感など多くのことを学んでくれたと思います。この経験を、今後の学校生活や、卒業後の人生の中で役立ててくれることを願っています。

(渋谷)

ファミリーコンサート

第三回ファミリーコンサートが7月5日(土)午後1時30分より「ヨロロツバ名曲の旅」と銘うって佐藤記念講堂において実施されました。今回は生徒数および保護者の参加希望者の増加で補助席を準備するという事態になりましたが、去年同様指揮とお話は小松一彦氏・演奏は大阪フィルハーモニー交響楽団で、熱気溢れる2時間に及ぶコンサートでした。



プログラムは、

◎第1部 校歌・ベートーヴェン／交響曲第3番変ホ長調「英雄」

◎第2部 シベリウス／交響詩「フィンランディア」・ヘンデル(ハーティ版)／組曲「水上の音楽」より4曲・ラヴェル／ボレロ

今年の演奏を鑑賞した生徒たちは生演奏の迫力を再確認したことと思います。(河邊)

平成22年度 教育実習

◆実習時期 5月上旬及び6月中旬～7月上旬

予定申込期限 平成21年7月末
※必ず本人が来校し、教務に申し込んで下さい。

高中祭「古本フリーマーケット」

高中祭恒例の「古本フリーマーケット」にご協力いただける方は、お手数ですが、9月下旬までに、直接図書室までご持参いただくか、本校図書室フリーマーケット係あてにご郵送ください(申し訳ありませんが送料はご負担願います)。なお、ご不明の点がございましたら、本校図書室の担当者までご連絡ください。(北代)

私のじぶと館見学

七月十八日、中二の校外学習として、関西文化学術研究都市にある、「私のじぶと館」を訪れた。

午前は、時計・玩具・菓子・家具などの物作り体験や消防士・宇宙飛行士などの仕事の体験を行った。多数のリストの中から、あらかじめ各自が選んでおいた体験ということもあり、生徒達は大変熱心に取り組んでいた。



午後は、最初にコンピュータソフトを使った適性検査。設問に答えていくと、自分がどんな仕事に適性があるかを回答してくれるというもので、生徒は興味深く取り組んでいた。最後に、各ブースを自由に見学した。

ご承知のように「じぶと館」は無くなること。三年間続いたこの行事も、本学年が最後となったが、生徒達にとっては大変有意義な活動であったと思う。(林)

高中祭

今年的高中祭は9月27日(日)です！卒業生の方々も是非ご参加下さい。

「校長先生の顔も見られないほど緊張しましたが、気持ち良かったです」試合球を受け取った高三今君の言葉。この日の生徒皆と同じ、屈託なく明るい、晴れがましい笑顔がそこにあつた。

ひたむきにボールを追う中一男子、グラウンド一杯にスペースを生かす上級生。応援の声もわき揚がる。

サーブで決まる中一女子、ワン・ツー・スリーでアタックを決める上級生。レフェリーの判定、試合後の礼。すべてがすがすがしい。



校舎では、図書係による古本市が、盛況以上の混雑ぶり。

美術部の傑作、生徒作品の空想動物・布絵本、化学室でのペン立て・マグカップなど、どれもアイデアに満ちている。中一の書写作品は、一字ずつだが、個性的。

文芸部の特別号『輝石』に読み耽る。「しをり」も心温まる配慮。

来校の小学生とご家族のラミネート作りも微笑ましく、また、校内放送の清らかな声が快い。

生物部の解剖実験が大入り。手さばきはたどたどしいが、かえって興味わく。大きな解剖図があれば、分かりやすいだろう。英国旅行のスコーン作りも楽しい。スライドで、生徒が体験を語るのも方法か。

キャンプ写真の展示。短歌が秀逸で、笑ったり、感心したり。若さの歓びが好ましい。

中三英語暗誦のレベルに驚嘆。「順位争いでなく、本選では名勝負を期待したい」との先生のご講評にふさわしい。友達が声援する様子にも心打たれる。

佐藤講堂でのギター演奏・コーラス発表は授業のみの成果と思えぬほど。暫し楽の翼に空を舞う。音楽部